



るう様

愛用ミシン:JP510M

縫うよろこび

小学生の時にいつも遊んでいた児童館の先生がミシンを手取り足取り教えてくれて、巾着を縫ったのが私のミシンの原点です。

お転婆だった私が「自分で縫った」と巾着を持ち帰った時に母がビックリしていたのを今も覚えています。

ミシンを使う時だけは他の子に教えるくらいでしたが家庭科の裁縫の授業はずっと苦手でした。

そんな私が再びミシンに向き合うことになったのは娘の入園でした。

入園に必要なグッズを縫うために試しに買った家庭用ミシンと初心者向けのレシピ本を見ながら、お弁当袋などの巾着やキルティングのバッグをなんとか形にしたあと、布も余っているし、失敗してもいいやとスモッグを縫ってみました。裏表を間違えて縫っては解いて、なんとか出来上がったものは、拙いながらも1枚の服でした。

平たい布が立体的に仕上がることに感動して、あれもこれもと縫い始めたらすっかり夢中に！

その結果、娘の服はいただいたお古服を除いて靴下以外はほとんど手作り服になりました。下着は一部のみでしたが、コートや発表会の衣装まで縫っていました。

それだけではソーイング熱が冷めやらず、手作り品を委託販売するまでになりました。

JANOME
100
YEARS
since 1921



家庭科が苦手(今でも手縫いは苦手です)だった私がミシンなら楽しかったのは、ひとえに小学生時代に手取り足取り教えてくださった児童館の先生のおかげだなあと感謝しています。

学校のバザーでは小物類を大量に出品したり、娘の部活動の役員になった時に 60 個近くのお守りを手作りましたのは今ではいい思い出です。

転勤族だったので引越したばかりの時に初めての保護者会の自己紹介でミシンが趣味だと話したら、それがきっかけで何人かに声をかけていただき、すぐにママ友達ができました。

数人で集まって子どもが使うものさし入れと一緒に縫ったりもしました。



東日本大震災の時は小学生が使うシューズケースや絵本バッグを送るボランティアに参加したり、コロナ禍でマスク不足になったときは大量のマスクを委託先に出品したり、ミシンがあったから社会貢献できたこともあります。私が縫うことでどなたかに喜んでもらえる嬉しさは格別です。

ミシンはもはや私の人生の一部です。これからもミシンができる時間を大切に、誰かを思って縫える幸せをかみしめたいと思います。